

グラフィックデザイナー 大橋正

大橋正は主に戦後活躍したグラフィックデザイナーです。

京都市に生まれ、1934（昭和9）年、東京高等工芸学校の工芸図案科に入学します。この工芸図案科の3学年下にはアンパンマンの生みの親である漫画家やなせたかしがいました。

卒業後、大橋は大丸百貨店や日本電報通信社（現在の電通）などの企業デザイナーとして働きます。戦後フリーランスとなり、明治製菓やキッコーマンの仕事を多く請け負いました。

明治製菓の仕事は、1952（昭和27）年に明治ミルクチョコレートのパスターが日宣美展（日本宣伝美術会主催）で金賞を受賞したことをきっかけに、1970年代頃まで続きました。

今回展示しているno.58《明治チョコレートキャラメルデラックス》no.59《明治コーヒーキャラメル》も明治製菓での仕事です。《明治チョコレートキャラメルデラックス》は、亀倉雄策がデザインしたチョコレートの包み紙をモチーフにした、大橋ならではの愛らしいキャラクターが人目を惹きます。このポスターはシルクスクリーンという技法で印刷されています。シルクスクリーンは当時、他の印刷技術に比べて安く、短時間ででき、また、印刷の現場で自由に色だしができたことから、この頃大橋が頻繁に使用していました。



日宣美展で金賞を受賞した《明治ミルクチョコレート》ポスター
松戸市教育委員会蔵